

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

SUPPORTERS CLUB NEWS



友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

驚！世に超えた手塚治虫の墓展

入館者一万八千二百六十人を記録して閉幕

美術館友の会も 多彩な協力活動

これまで何回も構想がありながら実現しなかった「手塚治虫の世界展」が青森県内で初めて開催されました。

平成元年に惜しまれながら亡くなられた20世紀を代表する世界的な漫画家手塚治虫氏の生い立ちやその業績を、1,200点に上る豊富な展示資料で紹介する今回の企画展は、宝塚市立手塚治虫記念館や手塚プロダクションを初めとする多くの皆様のご協力によって実現したものです。

本展は開催前より新聞テレビ等で広く報道され大きな反響をいただいておりますが、7月20日から8月31日までの期間中、美術館は親子連れや

子供達のグループ、また少年時代を懐かしむ年配の方々など多くの来館者でにぎわいました。期間中の入館者は18,260人を記録し、企画展としての最高の数字を残すことができました。特に最後の日曜日となった8月27日には、1日の入館者としてはこれまで最高の1,428人が美術館を訪れ記録づくめの企画展となりました。

美術館友の会では、これまでと同じくオーブニングレセプションのお手伝いや会場監視ボランティア活動などで企画展の運営に協力をいたしました。

今回はこれに加えて、友の会として青森県社会参加活動推進協議会へ助成金を申請し講演会を開催したり、図書研究費より映像資料を購入して会場でのビデオ上映を行ったり、美術館の

中庭にイベントテントを設営してワークショップの実施に協力するなど多彩な協賛事業を実施いたしました。

また美術館では、今回の手塚展においてになったたくさんの方にアンケートのご協力をいただきました。その数は数千通に上ります。

小中学生の素直な感想がたくさんある一方、普段あまり美術館に來られない30代以上の男性や、世代的には手塚作品には縁遠い年配の皆様のお答えも意外なほど多くありました。ほとんどは本展の趣旨に共感され今後企画に期待されるものでした。また企画運営に関し

て貴重なご指摘・ご意見もあり、これからの参考とさせていただきます。と思っています。

今回の企画展「手塚治虫の世界展」は、鷹山館長を初めとする財団理事及び美術館スタッフの熱意と、関係諸機関及び友の会会員他のボランティアスタッフのご理解とご協力により、無事閉幕いたしました。お力添えをいただいた皆様に、厚く感謝申し上げます。

すでに本年5月、鷹山宇一記念美術館は開館以来の累計来館者が10万人を突破しております。今後とも地方よりの文化発信にご協力をお願いいたします。



8月15日 会期中の入館者1万人目となった澤野一夫さんご一家を囲んで福士町長・青山理事長・鷹山館長と一緒に記念撮影



手塚作品のキャラクターがレイアウトされた美術館の中庭

術館に隣接する道の駅しちのへのレストランで開催されたオープニングレセプションでは青山浄晃鷹山宇一記念美術振興会理事長の主催者挨拶にき、成田榮子青森県副知事よりご来賓祝辞をいただきました。
いて、村上淳一手塚治虫記念館副館長のご発声で乾杯をして企画展の功を祈念しました。

7月19日オープニングレセプション 隣接の道の駅しちのへの レストラン「絵馬」で開催



美術館前にてテープカット 右より福士七戸町長・青山財団理事長
成田青森県副知事・松谷手塚プロダクション社長・石子順氏
村上宝塚市立手塚治虫記念館副館長

1,200点もの自筆原稿・アニメセル画・映像資料を展示

鉄腕アトム ジャングル大帝 リボンの騎士 ブラックジャック 火の鳥 たちが大集合”

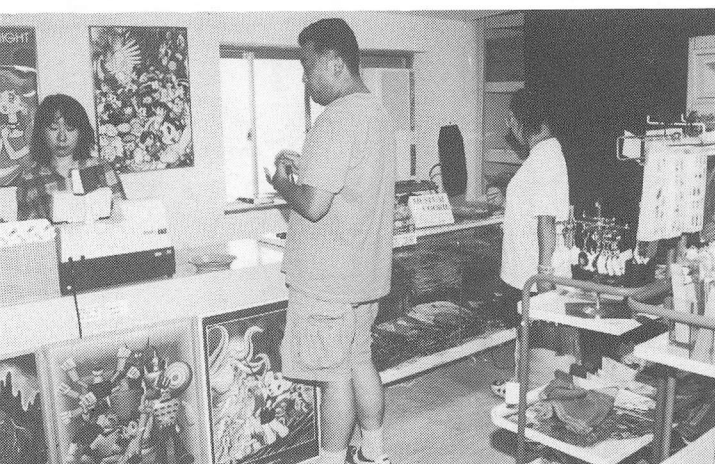
平成12年7月20日～8月31日までの43日間



美術館の中庭でワークショップを開催
子供達の体験学習に協力ノ高校生ボランティアも大活躍



友の会では青森県社会参加活動推進協議会より
助成金を得て、上北・西北教育事務所管内の小学
校6年生の国語教科書に19ページにわたって掲載さ
れている「手塚治虫は生きている」の著者・石子順氏
をお招きして講演会を実施しました。



ミュージアムショップも大賑わい

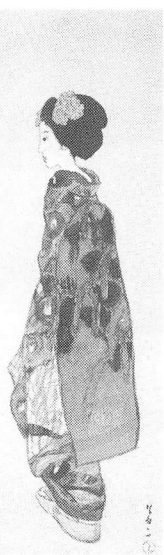


美術館ロビーでレーザーディスク
「ジャングル大帝」を上映
来館者より、懐かしいと大好評

芸術の秋 鷹山宇一記念美術館の特別企画展

9月29日(土)～10月30日(日)

椿絵名品展―北限の椿・あおもり

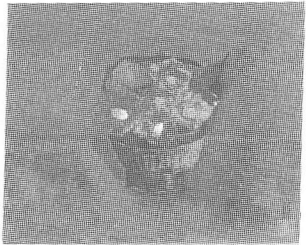


▲竹久夢二《舞妓》

巻き起こしました。また、茶道の世界でも炉の花として重宝され、「茶の湯の花」の主役のひとつとなるなど、ツバキの花は今日まで大きな位置を占めてきました。芸術家たちも例に洩れず、ツバキの多彩な魅力に惹かれ、この花を題材に取り上げて、絵画や工芸品など多くの作品に美しく表現しています。本展では、日本を代表する日本画・洋画・工芸各界の芸術家たちによる、椿を題材とした作品約70余点をご紹介します。様々な芸術家たちによるツバキの多彩な表現をどうぞお楽しみ下さい。



▲尾形光琳《椿図蒔絵硯箱》



▲岸田劉生《籠椿》

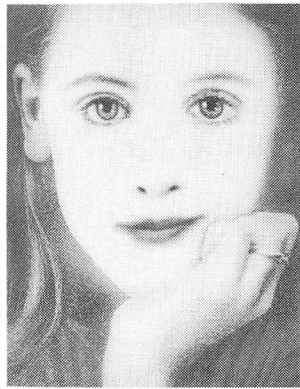
『万葉集』にも詠まれるなど、ツバキの花は古くから多くの人々に愛されてきた、日本人の心の花です。江戸時代には愛好家も増加し品種も数を増して一大ブームを占めてきました。芸術家たち

★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★

11月18日(土)～12月3日(日)

第60回国際写真サロン展

全日本写真連盟と朝日新聞社が、1927(昭和2)年から続けている国内では最も伝統のある写真コンテスト「国際写真サロン」。本展は、「サロン」入選作品130点の全国移動展であり、当館での開催も4回目。いよいよお馴染みの特別企画展として、多くの写真家、愛好家のみならず、一般の方々にも人気の展覧会です。国内外、プロ・アマ問わず参加できるこのコンテスト。60回を迎えた今回、海外50カ国・地域から3,319点、国内から3,396点、総点数6,715点の応募があったといえます。作品審査会は1999年11月16日、朝日新聞社東京本社で開かれ、海外80点、国内50点の計130点の入選が決まりました。また、この中から審査委員特別賞6点が選ばれています。



▲審査委員特別賞「MELY」(カラー) DANIEL BRITOS (アルゼンチン)

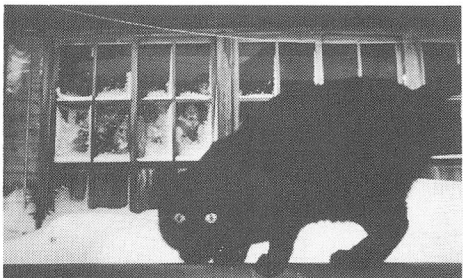
10:00→17:30迄

入館料 一般 ¥500(¥400) 学生 ¥300(¥240) 小中学生 ¥100(¥80) ※()内は20名以上の団体料金

10/1(日) 茶道裏千家淡交会七戸会の皆様による お茶のサービス

作品はすべてホンモノです ★出品作家のご紹介★

- 日本画-
- 上村松篁 大山忠作 奥村土牛 小倉遊亀 堅山南風 加藤東一 川合玉堂 小林古径 高山辰雄 竹久夢二 堂本印象 中島千波 橋本明治 福田平八郎 堀文子 前田青邨 牧進 松尾敏男 村上華岳 安田鞞彦 山口華楊 山口蓬春 横山大観
- 洋画-
- 糸園和三郎 梅原龍三郎 香月泰男 岸田劉生 熊谷守一 児島善三郎 五味梯四郎 鳥海青児 椿貞雄 中川一政 福井良之助
- 工芸-
- 尾形光琳 尾形乾山 北大路魯山人
- その他



▲審査委員特別賞「分校の猫」(カラー) 関口潤二郎(滋賀県)

写真教室「街角スナップのポイント」(仮題)

とき 平成12年11月19日(日) 10:00～12:00

ところ 七戸中央公民館・集会室

講師 木村恵一先生
全日本写真連盟関東本部委員
日本大学芸術学部写真学科教授
アサヒカメラ月例選者：カラー・スライドの部

モデル(三沢ハイスクール生徒を予定)撮影会

とき 平成12年11月19日(日) 13:30～15:30

ところ 道の駅しちのへ・鷹山宇一記念美術館中庭

しどう 木村恵一先生、全日本写真連盟総本部事務局長、同連盟青森県本部委員長 ほか

いづれも参加費無料

国際写真サロンご優待券を差し上げます

平成12年度青森県／美術館コレクション展
「不思議な花園―奈良美智、橋本花を中心に」 大好評のうちに終了しました。

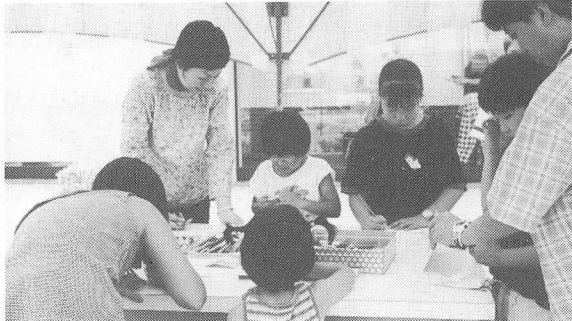


7/9日、ギャラリー・トーク

ご案内
 岩手県立博物館に
 七戸町・見町観音堂と小田子不動堂の
 「南部小絵馬」ほか庶民信仰資料が展示されます。
 人と馬とが織りなしてきた歴史と文化、を紹介する
 岩手県立博物館開館20周年記念特別展「馬」展
 に出品されるものです。
 この機会に是非お出掛けください。
 会期/10月5日(木)～11月26日(日) 月曜日休館

手塚治虫展会期中の8月1日(火)～8月6日(日)
博物館実習生を受入しました!!

「博物館実習」。それは「学芸員」の資格を取得するための教科の一つです。学校によってその期間はまちまちですが、だいたい1～2週間程度、学芸員がいる美術館や博物館などの施設でその仕事、施設の裏側の世界を実際に体験する、教職課程でいえば「教育実習」のようなモノです。当館では開館以来4人目の実習生受入となります。とは言ってもホントに雑用ばかりさせてしまっていて・・・トホホ。まだまだ不十分な受け入れ態勢の中、ホントに良く頑張ってくれました。下の写真はワークショップを手伝ってくれているところ。左の女性が小坂さんです。



【博物館実習を終えて】

明治学院大学文学部芸術学科4年 小坂 悦子

美術館において刻々と順調に過ぎてゆく時間の背後に隠された、様々な人の思いや気遣いを知る日々を送った、というのが数週間たった現在の感想です。鷹山宇一記念美術館で私は8月1日から6日という本当に短い期間でしたが、ワークショップの手伝いや進行、キャプション作り、絵馬に関する記録の清書など、美術館の運営において表舞台的な仕事と裏方の仕事の両方を体験する事になりました。

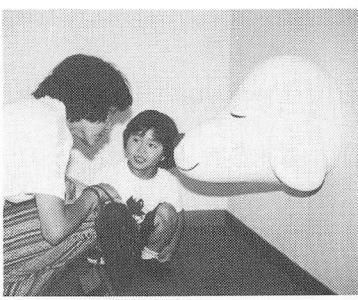
私は千葉県在住で大学は都内にあります。実習をこの鷹山宇一記念美術館にお願いしたのは、両親が転勤で十和田市に来たこともあり、昨年の夏に訪れたことがきっかけの一つです。その時の印象としては、建物の構造が興味深く、特に大きなガラス窓が外部の自然とまるで一体化したような気分になり、美術作品を観ることは美術館では当然のことですが、外の世界までも何だか新鮮な目で眺めることが出来たように記憶しています。そしてロビーにある多くの図録や著作の中に、数冊の学芸員に関する本が置かれていたことが実習でお世話になる始まりとなりました。

授業の関係で都内の美術館やギャラリー巡りをすることは多いですが、特に現代美術のテクノロジーに関した作品を観ることが多く、鷹山宇一記念美術館での地域と密着した運営は、都内の時代や流行といった移り変わりの速い情報提供とはまた一味異なり、情報発信という点においては美術に関する基礎の土台作りができる馴染みやすい温かい場のように感じました。

この文章が載る頃には、8月に「手塚治虫の世界展」だった展示室に一体何が飾られているのでしょうか。考えると何だか不思議な気分です。

れた展覧会です。最初の会場となった当館では、7月1日(土)～7月9日(日)迄「不思議な花園―奈良美智、橋本花を中心に」をテーマに開催され、9日間の会期中、1,567人も多くの皆様にご来館いただきました。特に、いま世界のアートシーン注目の的、超人気のアーティスト・奈良美智の作品を多く目の当たりに出来ることもあり、その人気を証明するかのようには、県内外から、若者たち、そして、熱烈なファンの方々の姿も多

く見受けられました。また、インターネットを活用した展覧会の情報提供が、かなり有効であることも証明された展覧会でもありました。



▲ワンワン、かわいいネ

美術館日誌

【6月】

- ◇平成12年度友の会総会、東奥日報社長佐々木高雄氏講演会(3日)
- ◇「七彩色」油絵教室開催(4日)
- ◇平成12年度第2回理事会開催(10日)
- ◇火曜サロン開催(13日)
- ◇七戸高校PTA 22名来館(15日)
- ◇上北小学校4年75名来館(16日)
- ◇七戸町ライオンズクラブ56名来館(18日)
- ◇展示替え作業のため臨時休館(27日～29日)
- ◇「青森県／美術館コレクション展」オープニングレセプション開催(30日)

【7月】

- ◇「青森県／美術館コレクション展」初日(7/9迄)、県学芸主査立木祥一郎氏講演会開催。第2回友の会役員会開催(1日)
- ◇「青森県／美術館コレクション展」ギャラリー・トーク開催(2日、9日)、9日間の会期中1,567人の入館者
- ◇展示替え作業のため臨時休館(11日～18日)
- ◇火曜サロン開催(11日)
- ◇「七彩色」油絵教室開催(16日)
- ◇「手塚治虫の世界展」オープニングレセプション、石子順先生講演会開催(19日)
- ◇「手塚治虫の世界展」初日(20日)
- ◇ATVおしゃべりハウス鷹山館長出演(27日)

【8月】

- ◇開館記念日につき、夜8時迄延長開館を実施(1日)◇博物館実習生受入(8/6迄)◇新任教員郷土学習で美術館を見学(3日)
- ◇火曜サロン開催(8日)
- ◇「手塚治虫の世界展」1万人達成(15日)
- ◇友の会研修旅行「秦の始皇帝と兵馬俑展」見学(20日)
- ◇「紅型染め」講習会開催(26日)
- ◇一日の入館者数開館以来最高の1,428人を記録(27日)
- ◇二科会会員阿美代子氏来館、当館収集作家平野四郎氏ご遺族・勝氏氏来館(30日)
- ◇「手塚治虫の世界展」最終日美術館開館以来最高の入館者数1,8260人を達成(31日)

反の会主催ワークショップ!!
開催いたしました

「紅型(びんがた)染め」で
美しい「うちわ」を
作って
みませんか?

★
と き
8/26(土)・27(日)の2日間

★
と ころ
七戸町立西野中学校

★
講 師
紅型彩色「はなずみ会」主宰
側見 沙と子 氏
(そばみ さとこ)

ワークショップ

紅型染め入門

奥山 雅子

8月26日(土)・27日(日)、講師の側見沙と子先生の指導のもと、町立西野中学校の家庭科室において、残暑厳しい蝉時雨の中で、初体験させていただきました。先生が、うちに下準備して下さって、私たちは色差しするだけの作業ですが、本当は色々な行程をへて(型紙を作ったり、型置きしたり、糊付けしたり)やっとなどり着くのですが、初心者ということと、日数がかかるということで、一番楽しいところの色差しをいたしました。



講師の側見沙と子先生

紅型とは?

紅型は沖縄を代表する型紙による染物、色鮮やかな型染めです。14~15世紀頃、南の海から渡ってきた中国やインドの更紗、そして染料技術など、あらゆる東洋文化の粋を吸収して、沖縄独特の気候風土の中で自然に生まれ、独自の技法を持つ紅型として誕生しました。

その当時は、琉球王侯貴族のみが着用を許されていたのですが、元禄時代には交易により、琉球から江戸へともたらされ、大変珍重されました。また、江戸から琉球へも友禅染がもたらされるなど、様々な影響を受けながら独特の素晴らしい文様や色彩、そして技術が生み出されたのです。



▲顔料を「呉汁(原料:大豆)でよく溶く

一緒に勉強した西野中学校の生徒さんたちは、とても大胆な色使いで仕上げていました。大人の私たちは先生のお手本の通りこわごわの色差しです。



▲それぞれ思い思いに色を差す。さすが柔軟な感性の持ち主・西野中学校生徒の皆さん

昼休みに学校近くの「婆古石蕎麦屋」で先生方と楽しく会食もできました。今年5月の研修旅行でも仙台の芹沢銈介美術館の中で型染めを見学したり、この度のワークショップでも紅型染めと何か染め物づいていような感じでした。次の日(27日)は糊落としをして乾かしたり、ハガキに色差しをしたり、先生の



▲遠くは八戸市、青森市からも。2日間で20名が受講しました。ご指導下さいました前列右より4番目が側見先生、左隣がお仲間の後藤美都乃さん、その左隣が鷹山増子さん。

- 染料工程 ■
- ①型紙を作り、②布の上に型紙をあてて糊を置く(糊の部分には色差ししても色が付かないという仕組み)
 - ③顔料で色を差し、乾いたら2度目の色差し(2度色を差すこと)で、色が鮮やかに出る
 - ④乾いたら「隈取り」というぼかし染めを施す(隈取りは紅型の原則)
 - ⑤スツカリ乾いたら水洗いして糊を落とす
 - ⑥出来上がり

作品の着物などを見せていただきました。あとは後日送られて来るうちわの出来の良いことを念じております。最後に、当日は西野中学校の下山校長先生に大変お世話になりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。と思います。



七彩会から二科展初入選!
盛田典子さん、古屋敷久美子さん
~2000年第85回二科展(絵画部)に於いて~

Good News!
おめでとうございます

清川哲子さん二科会会友推挙!
(二科会青森支部所属・八戸市)
~2000年第85回二科展(絵画部)に於いて~



◀友の会主催油絵教室から今年自主サークルとなった「七彩会」お二方とも二科展初出品にして初入選。盛田典子さん(右)と古屋敷久美子さん(左)



◀清川哲子さん(右から2番目)今年、当館を会場に開催された春季二科展オープニング・レセプションにて。



会員の懇★

ステキなお便りをいただきました。ご紹介させていただきます。

青森の「ニケ」

田中 勇

青森市立浦町中学校校章



「ニケ」と言うと、美術に詳しい皆さんは、あのパリのルーヴル美術館にある「サモトラケのニケ」を思い出すことでしょう。特に今年「スペイン・パリ美術紀行」に参加され実物を見た方々は、深い感銘を受けて帰ってきたと思います。この前、その「ニケ」を校章に使っている学校があるのを知りました。

しかし一体、「ニケ」とは何であるのか？少し勉強してみました。それはギリシャ神話の女神で、ローマ神話では有翼の姿で表され、多くの場合に勝利の象徴であるオリ



「サモトラケのニケ」は、船首に降り立った有翼の女神で、海戦の勝利を感謝し奉納したものだと思われ、1863年エーゲ海のサモトラケ島で発見され、16年後に船首の部分がさらに1950年には右手が発見されました。石造りの船に今まさに

降り立たんとしています。風に翻る上衣襞、均斉のとれた豊満な肉体がある以上にあらわとし、翼の力感と相まって軽やかさを強調しています。

さて、本題の「ニケ」は青森市立浦町中学校の校章です。学校の正面玄関に「サモトラケのニケ」の翼を背負った「中」の字がありました。学校のお話では、開校当時の美術の先生が考案されたそうで、学校要覧には「ニケ」の解説のほか、「校章の「中」の字が背負う白銀の翼は、「ニケ」の背に輝く天かけるその羽を模したものである。勝利の女神「ニケ」に導かれ、学習、スポーツに邁進する、浦町中学生の象徴として制定されたものである。」と書かれてありました。

世界的に有名なルーヴル美術館の「サモトラケのニケ」が青森市にあるとは意外であり、また、大変喜ばしいことで、さすが県都青森市だなあと感じます。今回は「サモトラケのニケ」を見つけましたが、これからも何か面白い美術を求めて青森の街をさまよいたいと思っております。なお、シドニーオリンピックのメダルには「ニケ」の像が刻まれております。

研修旅行「秦の始皇帝と兵馬俑展」へ行ってきました。総勢23名

始皇帝の権力と凄さに驚く

川村 美奈子

秦の歴史も備の知識もなく軽い気持ちで研修旅行に参加しました。

会場入口の長い列を見ても「夏休み最後の日曜日のせい」と、単に思っていました。入場者の列に並んだまま複製の兵士の像を見たり陳列ケースの中の器、農作業用具、瓦、楽器、装飾品、貨幣等を人の頭越しに見たりしていくうちに陶製の水道管が目に入りました。左右の太さを少し変えて繋ぎ合わせて使えるよう工夫されていました。二千年も前の物とは思えないと、感心しながら見ていきましたら、兵士の像がこちらを向いて立っているのです。

入口に並んでいた像とは明らかに違う、全体が暖かい感じのする像でした。二メートル近くある実大で、「將軍、武官、歩兵、騎兵、戦闘兵等、兵種、身分、年齢も分かる」と、解説されていました。一体一体で表情や顔も違い、顔を見ただけで、どの民族か分かるという位、精

密に作られているのです。鎧の一枚一枚の繋ぎ目や糸も本物に見える程柔らかく表現されています。ケースに入っていないので、前からも後ろからもぐるっと回って見ることが出来る。服装だけでなく髪型まで一体一体違うことが分かりました。

「俑」というのは陶器の人形である事も今回知りました。補助展示で制作過程を知り、「八千体もの俑をどのように設計し、指揮し、完成させていったのだろうか」「たった十五年という秦の

時代の護りを固める作業とは……」彩色の残っている像を見ながら、思いはどんどん広がっていきました。作品の芸術、技術の素晴らしさ以上に、始皇帝の権力の凄さに驚いてしまいました。



▲ 展覧会場入口にて記念撮影

お便りありがとうございます。
そしてまた、ドットお寄せ下さい

【原稿送り先】
 郵便番号、住所、氏名、電話番号
 をお書きのうえ、

〒039-2501
 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
 「鷹山宇一記念美術館友の会事務局」迄

◆ 編集後記 ◆

年4回発行の友の会会報。早いもので20号を数えます。郵便受けに「アツ!!」会報来てると、楽しみにされている会員の皆様のため(ないか……)頑張っただけで発行したい、そう思っております。今回はいつも早くお便りをお寄せいただき、ありがとうございました。

の調子で頑張ります。